

令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：帯広地区
- 2 事例報告学校名：帯広市立若葉小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 山田 知史
- 4 キーワード：地域や保護者との連携・協働

1 はじめに

若葉小学校は、帯広市の中心部から比較的近郊の南西方向に位置している。現在は宅地造成が進み道路も整備されているが、昭和47年の開校当時は緑豊かな樹木が繁り自然豊かな環境であった。昭和40年代の高度経済成長期に伴い、帯広市の市街地は急速に拡大し、児童数も著しく増加した、本校の開校は地域にとって待望のものであったと記録されている。開校時は11学級、児童数359名であったが、昭和58年は1,200名を超え、平成2年に隣に新設校ができるまで児童数は1,000人以上を推移した。現在の学級数は24学級（通常の学級14・特別支援学級10）児童数は511名であり、帯広市内では規模の大きな学校である。

2 周年記念事業の取組

ここ数年は新型コロナウイルス感染症により、教育はもちろん経済や文化、人と人とのコミュニケーション等あらゆる分野に影響を及ぼしている。学校は感染症対策を講じ、「学校の新しい生活様式」を踏まえた教育活動・学校行事を行っている。しかし、本校の感染状況はなかなか落ち着かず、ほとんどの行事等は延期、計画の内容変更を余儀なくされた。

そのような中、令和4年は帯広市開拓140年・市政施行90年、同時に本校開校50周年の記念すべき節目の年を迎えた。令和3年度に協賛会が立ち上がったが、地域の期待を受ける周年事業をどのように進めるかは大きな課題であった。また、PTA活動は自粛しており、組織や活動の在り方を考える点においても難しい局面を迎えていた。本レポートは、コロナ禍の中、周年事業を軸に地域やボランティア、保護者の学校への参加・協力意識の向上を目指した取組について報告する。

(1) 保護者の参加意識・協力体制の向上を目指す

令和3年度、PTA活動は多くの事業は縮小あるいは中止としたが、令和4年度も前年度同様となるのが予想された。前向きな活動の変更やPTA組織改編ではないため、学校への協力意識の低下が考えられた。そこで、保護者の学校との関わりをもたせて参加・協力意識を高めるため、PTA活動か周年事業のどちらかへの協力を依頼し、学校とつながりをもたせるようにした。

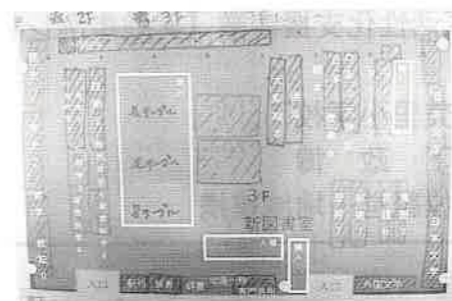
(2) 自分たちで図書室をつくった意識を高める

多くの人数と時間・予算をかけた事業が図書室の移動・整備である。校舎の増築や学級数の変化、特別教室の増設等により、図書室は非常に使いにくい状態だった。そこで、大きな教室へ場所を移動し、同時に本棚を新しくするなど教室環境を大幅に整備した。



図書室のレイアウトは司書教諭と図書ボランティア、掲示関係は読み聞かせサークル、本の移動と整理は保護者・協賛会・ボランティアと

教職員、児童会で分担した。自分たちで図書室を作ったという意識をもってもらうために、できるだけ多くの人が協力できるよう配慮した。新調した本棚や机・椅子等の決定は、図書ボランティアや読み聞かせサークルの方の意見を反映させた。新図書室が整備され、児童と共にオープン式を行った際には、関わった全ての人で喜びを分かち合うことができた。



(3) 地域業者との連携

全校児童が参加できる事業の計画は非常に難しかった。最終的には、グラウンドでバルーンセレモニーと航空写真撮影を行った。イベント事業に携わっている歴代PTA役員との協力を得ることができ、地域業者との連携が実現した。



(4) 周年事業への参加・協力意識の向上

記念式典の企画は協賛会で行い、事前・当日の運営は保護者を中心に行った。何度も会議等に参加することはできないが、会場準備や当日の手伝いなら参加できると申し出る保護者が多数いたので、多くの役割を保護者に依頼し協力をいただいた。特に式典に参加した保護者は、雰囲気を感じることができ、参加・協力意識が高まった。



3 おわりに

周年記念事業は協賛会を立ち上げ、保護者・読み聞かせサークル・地域ボランティア等の協力を得ていくつかの事業が計画された。一方、学校は令和3年度末から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。学級閉鎖が相次ぎ、周年事業のための会議も集合することができない状況が続いた。だからこそ、限られた時間で最大限の成果を出すことを目指してきた。

保護者にとっては、教職員と関わる貴重な時間となり、学校を理解する場となった。読み聞かせサークルは、子どもたちに図書室を大切にしてほしいと願う気持ちが一層大きくなり、読み聞かせ活動を充実させるきっかけとなった。地域ボランティアの人たちは、学校をより身近に感じ、学校と子どもたちに寄り添う気持ちが大きくなった。周年記念事業そのものは規模を縮小することを心掛けたが、細かな部分を工夫することにより、保護者や地域の方と精神的な距離を縮めることができた実感している。